



じんけんを「他人ごと」から「自分ごと」へ

OYAOYA 通信



学びのホームグラウンド じんけん楽習塾

3回目報告

6月13日 「人権と道德教育」東裕子さん

WES(女性のエンパワメントをサポートする会)

3回目のじんけん楽習塾は道德教育について考えました。講師は東裕子さん、長年小学校で教員をされてきました。少し古い？世代は道德ときくと、にんげんの本を思い出す人も多いようです。道德イコール人権の時間というイメージを持っている人もいます。



そんな話の後、紙に○△□を参加者一人ひとりが書くというアイスブレイキングをしました。みんないろいろ思ったように自由に書きます。書きながら、道德の教科化と評価は、もしかしたら、この○△□の書き方に、正しいのはこれだといわれることに近いかもと感じました。

教材「ぼくがいるよ」で考える

その後、歴史的な変遷の説明がありました。5年生の学習指導要領の紹介もあり、その話にも「え？」と思う教材の紹介もありました。(手品師という作品 自己犠牲が正しい?)

そしてグループで考えたのが「ぼくがいるよ」という作品です。さっと読むと病気で味覚をなくした母のために、料理は母がするが、味付けは子どものぼくがする、「ときどき」父も加わるという話です。「だから、ぼくにもっとたよっていいよ。ぼくがいるよ」という、実際の子どもの作文です。でた意見の一部

- 家族観、こういう家族でないかという美談、シングルな家族や離婚家族がだめと思わせないか?
- ジェンダー、父が病気で倒れた話ならどうなる?父の手伝いは「ときどき」なのか?
- イラストがカラーでパステルで母がかわいらしく鍋を持っていて、何か違和感を感じる 等の意見が出ました。ネットでこの作品を検索すると感動したという感想や、この話の

動画が上位にでていました。一見素晴らしい感動物語の裏にあるものが怖いと思いました。

道德が人権の反対に行かないか?

また、学研の小6の教科書でどうにか子どもの権利条約が取り上げられています。ただそこには、子どもたちに大切な権利を問うのではなく、どんな義務が大切かと問っています。

最後に東さんは、子育て広場などをしながら、お母さんたちに「一人で育てようと思わないで」と伝えるそうです。あまりにも家庭や親の教育がだめだと言われています。逆に、必死で子育てを抱え込みがまんばっている人がほとんどだと思います。

今の道德的なものの強化が、より一層そんな「母」を人権と反対の側に追いやるのではと感じました。それは母だけでなく、子どもやすべての市民に言えることなのだとも思いました。

文責 李(い)ぼんみ



連絡 宣伝したいチラシ等ありましたらお持ちください。おにぎり、パンなどの軽食はOKです。毎回ふりかえり用紙をくばります。通信に反映させたいと思います。(公開だめなものはオープンにしません)写真や通信は人権協会のホームページなどで使用場合があります。なるべく個人が特定しにくいものと考えていますが、困るという方は事務局に連絡ください。急がれる方は先に退席してください。じんけん楽習塾が終わってから、簡単な懇親会を毎回予定しています。終了時に声をかけますので、参加可能な方は会場に残ってください。



★★★★★ みんなの感想 ★★★★★

◆道徳の教科書化は気になってたので、実際の教材に触れ様々な意見をきくことができて、とても有意義な時間でした。人権は生まれながらにある権利であり、「義務」とひきかえに与えられるものではないと学んできて、子どもたちにも子ども権利条約を伝えるときそうやってきたので、人権と義務の教材にはすごく違和感を感じました。

◆「人権」と「道徳」一緒に思っている人はたくさんいると思います。権利と義務を天秤に載せているイラストに驚きました。見たイメージでとらえて、大きな勘違いになると思います。今日の教材も(たぶん他の教材も)じっくり検討できる授業になればいいと思います。そうでないとほんとにコワイです。

◆道徳の教科化について話はきいていましたが、実際に教材を見たのは初めてでした。学校で学んだ事が正しいことで、答えは1つと思わせない学習を道徳外で行うことも必要だなと思いました。(おかしな話ですが笑)。

学生さんが講義の中でフィクションかノンフィクションかこだわっていました。自分たちの生活とかけ離れた教材には、子どもたちには“どうせ現実ではないし”という冷めた気持ちだけを養ってしまうように思います。(ke-ko)

◆「道徳」を「教科として教える点数をつけて優劣をつけることに疑問を持ちます。色々な考えがあつていいはずだと思います。

♪じんけんは ひとりひとりに すべてある♪

◆道徳はほんとにこわいなと思いました。「こうあるべき」を学校で指導されると、家庭がしんどい子は学校でさえも安心できない場所になってそうで心配です。子どもたちはどこで安らぎをえられるのか…。そう考えると、おとなとして出来ることが何か。すごく考えさせられます。

◆道徳の教材がこれほど酷いものだとは思いませんでした。しっかりと教材を精査していく必要があると思いました。

◆自分たちがいた時代の「道徳」という授業と、現在の「道徳」という内容や概念に大きな違いがあることに、びっくりさせられました。ただ、教材等で教えることではないのかと個人的には思います。

◆教材については固定観念があるなと感じました。多様な生き方・家族の形や生活スタイルがあることもきちんと教える実用があると思います。

◆道徳が教科になって単純に「よかった」と思っていたのですが、教科になるということはこういう事か、また、教科になった背景を教わり考えさせられました。

◆ネットで様々な情報を子どもたちが簡単に知れる。多様な家族形態がある。そんな現代社会の中で道徳教育が必要なのは一定理解できます。でも、難しい…。落としどころを決めつつ多様な価値観を認める授業ってどんなものでしょう？国が国の都合のよい人間をたくさん作っていくための道徳教育になるのは本当に怖いと思います。

◆多面的多角的な見方考え方を養うためには批判的のつまみ満載の指導書なり指南書を出していく必要がある。このままでは一方的な価値観を押し付けたり、自分の考えはさておきまわりにあわせる知恵ばかり養うことになってしまう。恐るべし！
検定道徳本。(かつちゃん)

◆教育現場はとても大変だなと思った。多様な考え方、意見を伸び伸び言えることが大切な方針に変化してほしいと思った。♪どうとくを これからみんなで どうとくの？♪

◆道徳を教えなければならない時代背景が複雑多様化しているので、教える側は難しいと思う。法律でいろいろなことを管理される今の世の中は昔に戻ってるような気がして薄気味悪さを感じた。実際の教材を使って考える良い機会となりました。

◆「考え議論する道徳」と文科省は言ってますが、教科書の教材にはかならず答えがあり、一定の価値観を植え付けようとする意図が丸見えです。(しみちゃん)

◆今日は「じんけん楽習塾」に来ている参加者だから、教材を批判的に読むことができたけれど、忙しい教員が十分に指導案を検討することもなく、教科書通りに教えるのだと思うと、子どもたちへの悪影響がおそろしい。そもそも空気を読まなければやっていけないような学校だから、いじめが悪化しているのに、こんな道徳の授業では、子どもはさらに先読みすることを強要されるので、いじめが悪化するとか思えない。これでは子どもを守るためには「学校で教わることを全部信じなくていい」と伝えるしかないのではないだろうか。(くりとも)

2018年度ルール

やさしい気持ちでお互いを尊重 / オールOK / プリーズ / リラックスすれば理加が深まる / ズッパッとOK / ずっこけOK / ずっと考えても思いつかない時はパスOK / 無理をせずみんな楽しく学びましょう / ほったらかしにしない / うそいつわりはなし / 類のない時に使用 / 守秘/